

# 釜ヶ崎の赤いげ先生

本田良寛先生

《4》

## 社会的要因

本田良寛先生は済生会今宮診療所長に就任して以来、大阪市大医学部の協力でこれまでほとんど手の付けられていない簡易宿泊所の環境調査や住民の健康管理など社会医学の立場から調査を進めた。そして「釜ヶ崎を良くするために政治を動かす、アパートを建て、総合病院もつくる。そんな夢を実現するためには科学的なデータがどうしても必要」と痛感していた。

実際、「今宮診療所通院患者の社会医学的実態調査」によると、来院患者の1位が「不慮の事故」、2位が「結核」だった。しかも大阪で発生する結核患者の7割、性病患者の6割を釜ヶ崎地区だけで占めていた。そして3位は「高血圧」、4位が「肝障害・アルコール依存による精神・神経障害」と続く。この調査の結果、分かったことは「病気の原因は、生物

学的な要因より社会的な要因が重大」ということだった。

1970年代に釜ヶ崎で医療実習した経験がある天願勇医師はこうリポートしている。

「高度成長が大阪万博ムードを熟成していたが、片方では貧困のため、適切な治療を受けられない

さらに貧困と生活苦が追いつかなくて心身を浸す。いわば三重苦である。良寛先生は「愛隣地区という方も非常に多く、梅毒なんかはいろんな実態調査」も行った。西な経路で罹患する。先天先生は作業スポンを



「本田先生の志を引き継いで診療させていただいております」と話す齋藤院長

医療活動を続けている」と評価された。実際、地区の病人、患者は目に見えて減少し、厚生の実をあげて環境衛生の向上に良い影響を与えていた。また、良寛先生は長年にわたって各種の衛生実態調査を断続的に実施して、その調査研究も発表していた。

そして80年には「今宮診療所通院患者の社会医学的実態調査」「愛隣地区での売血者、性病などの実態調査」などの業績で吉川英治文化賞を受章。

## 実態調査し結核撲滅へ

# 「上から目線はあかん」

い階層が生じた。さらにこの地区の患者の老化は自然年齢よりも早くやっ

「高度成長が大阪万博ムードを熟成していたが、片方では貧困のため、適切な治療を受けられない

的に梅毒なられた方もおられました。梅毒で初期高熱があつて、本田先生はその初期でもたいたら治るといふ人を入院させないといふこと。本田先生は本当に日雇いの労働者のその身になって治療にあたっていました」

### 献身的に活動

1988年、良寛先生は大坂文化賞を受賞した。その理由は「愛隣地区の診療所に常勤医師のいないことを知ってその任に飛び込み、物心ともに恵まれぬ人々のため採

### 自身も罹患

中平さんは良寛先生が結核の罹患に見落としかあってはいけなないと熱心にエックス線フィルムの検査結果を見ていたこと

算を度外視した献身的な



無料で結核健診を行っている西成区保健福祉センター分館

(大山勝男)